

【05年次生以降】

学科科目の構成について

外国語学部の学科科目は、以下の部分で構成される。

- ・ 外国語学部基礎科目：外国研究の入門として1年次生を対象とした「外国研究入門」と、外国研究に必要なディシプリン（専門学問領域）の基礎知識の習得を目的とする学部共通の科目群からなり、1、2年次に修得すること。いずれも選択科目であるが、1年次春学期の「外国研究入門」は履修することが望ましい。開講科目についてはp.268参照のこと。
- ・ 必修科目：卒業要件を満たすために学生が必ず履修しなければならない指定科目。
- ・ 選択科目：卒業要件に応じて特定の科目群から学生が自由に選択できる科目。

なお、「卒業に要する科目」の「学科科目」には、専門分野科目のほかに学科選択科目、他学部他学科科目、課程科目等で充当することもできる。学科によって充当できる内容が異なるので該当ページを参照すること。また、**専門分野科目については、各自が選択した専門分野以外の専門分野科目も履修することができる。**

専門分野について

- (1) 外国語学部各学科の学生は、下記の表に記載された各学科ごとに指定されている専門分野のうちから1つを2年次春学期末に選択し、学科事務室に届け出なければならない（届出できる専門分野は6学科同一ではないので注意すること）。

所属学科	各学科が指定する専門分野				
英語学科	英語研究	アメリカ研究 英国・英語圏研究 ヨーロッパ研究	言語学研究	国際関係研究	アジア文化研究
ドイツ語学科	ドイツ語研究	ドイツ語圏研究 ヨーロッパ研究	言語学研究	国際関係研究	アジア文化研究
フランス語学科	フランス語研究	フランス語圏研究 ヨーロッパ研究	言語学研究	国際関係研究	アジア文化研究
イスパニア語学科	イスパニア語研究	イスパニア語圏研究 ヨーロッパ研究 ラテンアメリカ研究	言語学研究	国際関係研究	アジア文化研究
ロシア語学科	ロシア語研究	ロシア・ユーラシア研究 ヨーロッパ研究	言語学研究	国際関係研究	アジア文化研究
ポルトガル語学科	ポルトガル語研究	ポルトガル語圏研究 ヨーロッパ研究 ラテンアメリカ研究	言語学研究	国際関係研究	アジア文化研究

- (2) 専門分野の届出

届出：外国語学部の学生は、2年次春学期終了時に、所属学科が指定する専門分野のうちのいずれか1つを選択し、所定の用紙によって外国語学部事務室に届出なければならない。届出要領等はLoyola掲示板（学科・専攻別）にて通知する。

変更：届け出た専門分野は、2年次秋学期以降、卒業直前の学期を除き、変更することができる。ただし、変更によって各専門分野の所定の科目・単位を履修できない場合があるから、変更は慎重に行うこと。

- (3) 専門分野の履修証明

取得：4年の修業年限を満たし、所属学科が定める「卒業に要する科目、単位数」を修得し、かつ履修した専門分野が定める所定の単位を修得した学生は、4年次の12月に本人が申請することにより、履修した専門分野の履修証明の交付を受け、また、翌3月以降本人の申請により成績証明書にその旨を記載することができる。

また、履修証明の交付を受けようとする学生は、原則として「卒業論文・卒業研究Ⅰ」「同Ⅱ」を同一の専門分野の科目として登録しなければならない。**なお、専門分野の「履修証明」の取得は、卒業要件ではない。**

申請：履修証明の申請は、成績証明書を添付の上、卒業論文または卒業研究の指導教員の所属する学科、または言語学研究、国際関係研究、アジア文化研究に提出する。申請の時期・申請要領等はLoyola掲示板（学科・専攻別）にて伝達する。

外国語学部開講科目における科目記号について

外国語学部で開講される科目で使用している記号は、原則として以下の定義による。ただし学科、専門分野によっては例外的な記載があるので、各学科の該当ページを参照すること。

- ・ ローマ数字のⅠ, Ⅱ… 科目段階区分: 各学科の専攻外国語, 卒業論文のようにⅠの科目を履修できなければⅡの科目を履修できない科目。
- ・ アルファベットの大文字A, B… 科目の内容区分: 同じ名称の科目だが講義内容が異なる科目。
- ・ アラビア (算用) 数字の1, 2 科目の春学期, 秋学期に区分される科目。
- ・ アルファベットの小文字a, b… 科目のクラス区分: 同じ科目のなかでのクラス分け。
- ・ (他) 他学科開講科目
- ・ (隔) 隔年開講
- ・ (重) 重複履修可能科目 (2回以上履修した場合, いずれも卒業に必要な単位として認められる。)
- ・ (外) ヨーロッパ研究, ラテンアメリカ研究専門分野の科目のうち外国語で講義される科目

※備考欄に旧「○○○」と記載された科目については、科目名および上記の科目記号を変更したものである。これらの科目は新科目と同一科目としてみなすので、既に旧科目名で修得した科目は新科目名で履修しても、卒業に必要な単位として認められない。

留学、編入学に伴う科目および単位認定について

留学した学生は帰国後、また編入した学生は編入後すみやかに、学事センターの所定用紙にて申請のうえ、単位認定を受けなければならない。認定を受けた科目を専門分野科目に充当したい場合は、外国語学部事務室に備え付けの用紙により、申請しなければならない。履修証明の申請の際は、その用紙と手続き完了後の単位認定願コピーを添付すること。

卒業論文・卒業研究について

(1) 卒業論文と卒業研究の違い

卒業論文は、論文形式の研究成果で、表紙、目次、本文、注記、文献目録からなっていないなければならない。指導は主査1人、または主査と主査の指名する副査の2人による。

卒業研究は、論文形式以外の研究成果で、形式においては卒業論文とは異なるものの、内容と完成に要する知的努力においては卒業論文と同等とみなせるものでなければならない。卒業研究のテーマになり得るかどうかについては、登録した専門分野の演習担当教員と相談すること。卒業研究の提出物は、研究成果物とその成果物に対する解説・解題資料等の文書化されたもの (8000字程度) からなる。指導は主査と副査の2人による。

(2) 履修登録

卒業論文または卒業研究を提出しようとする学生は、卒業予定年次に「卒業論文・卒業研究Ⅰ」「Ⅱ」を履修しなければならない。

「卒業論文・卒業研究Ⅰ」「Ⅱ」を履修する学生は、届け出た専門分野においてそれを履修しなければならない。専門分野の履修証明を取得するためには、「卒業論文・卒業研究Ⅰ」「Ⅱ」は必修である。

「卒業論文・卒業研究Ⅰ」「Ⅱ」を履修する学生は、卒業年次にLoyolaにて、指導教員の所属する学科または言語学研究、国際関係研究、アジア文化研究の各専門分野の登録番号で履修登録をしなければならない。ただし、言語学研究所の学生は、指導教員の所属にかかわらず、言語学研究所の登録番号にて履修登録する。

「卒業論文・卒業研究Ⅰ」「Ⅱ」を履修する学生は、Loyolaでの履修登録とは別に、「卒業論文・卒業研究作成届」を所属学科 (「ヨーロッパ研究」「ラテンアメリカ研究」を含む) ないしは、「言語学研究」「国際関係研究」「アジア文化研究」の場合は各専門分野の事務担当者に、5月31日 (火) までに提出する必要がある。

それ相当の理由 (留学等) がある場合は、「卒業論文・卒業研究Ⅰ」と「Ⅱ」を同時に履修することを認めることがある。

なお、「卒業論文・卒業研究Ⅰ」の評価には、P (合格)・X (不合格) を使用する。

(3) 提出

卒業論文・卒業研究の提出要領は下記のとおりである。

- ・ 期間: 2011年12月9日 (金) ~ 15日 (木) 午後5時まで
- ・ 場所: 学事センター (教務) 窓口
- ・ 執筆要領等: 指導を受ける担当教員が所属する学科・専門分野のページを参照すること。なお、卒業研究の研究成果を紙以外の媒体で提出する場合は、上書きできないようにプロテクトした状態のもの (例: CD-ROMもしくはDVD等) を媒体としたうえで、指導を受ける担当教員が所属する学科・専門分野の事務担当者のチェックを受けたのちに、文書化した解説資料と媒体を袋に入れ、袋の表紙に提出票 (学事センター (教務) にて配布) を貼付する形で提出すること。

卒業

外国語学部の学生は、4年の修業年限を満たし、所属学科が定める「卒業に要する科目、単位数」を修得すると、学位「学士 (外国研究)」が授与され、外国語学部を卒業することができる。